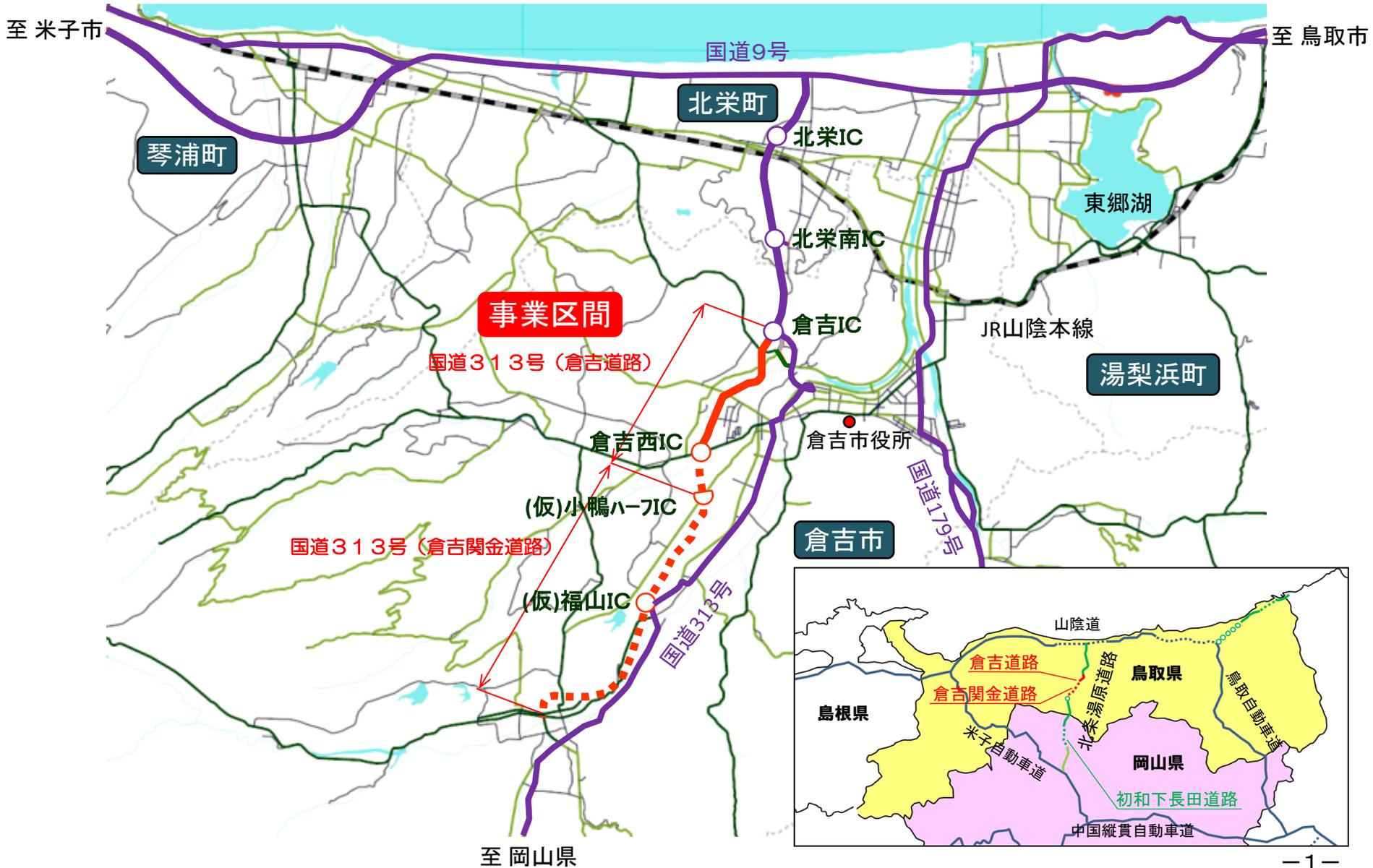


一般国道313号(倉吉道路)

平成26年度公共事業評価委員会(第5回)
説明資料

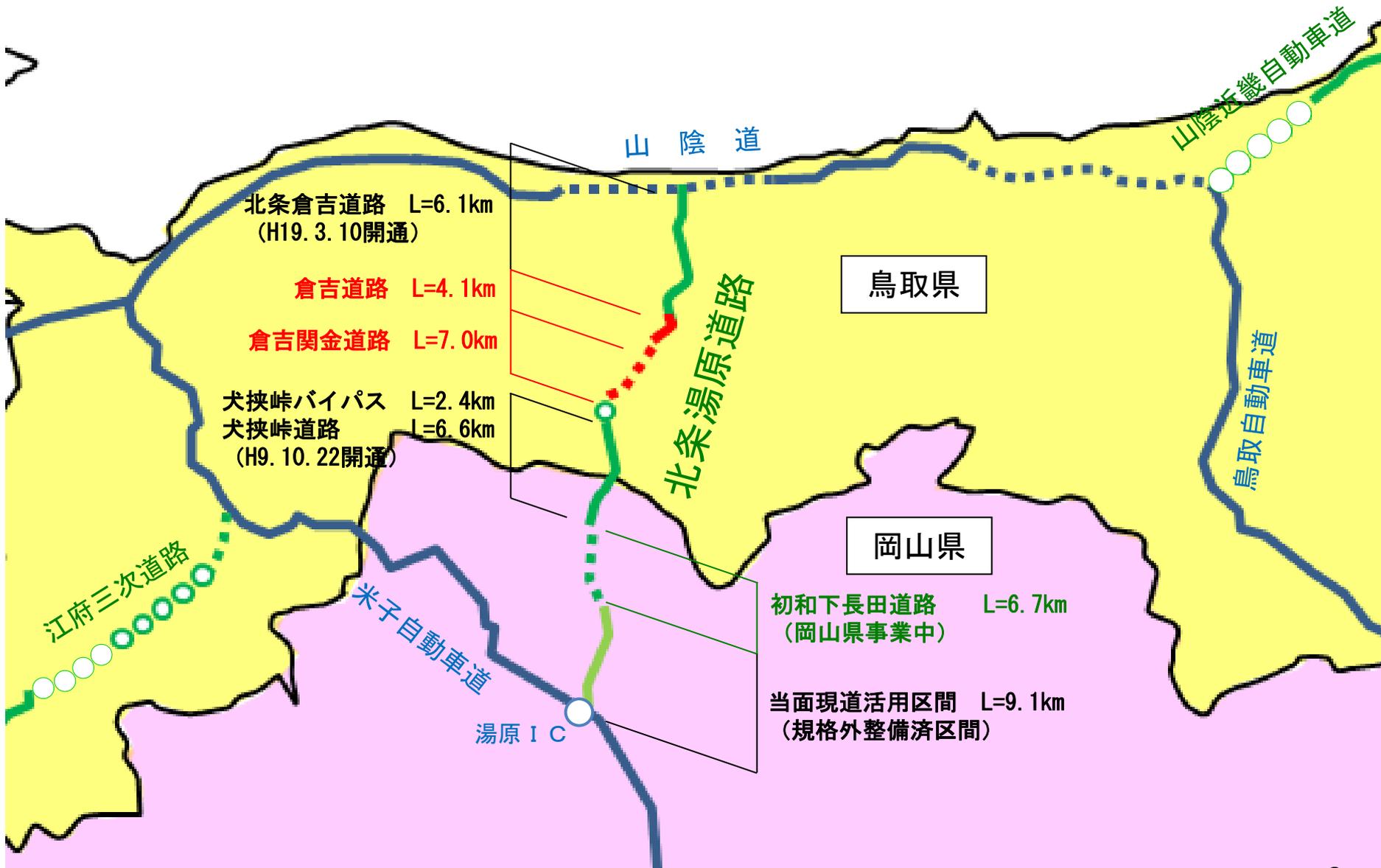
1. 位置図

国道313号(倉吉道路)



2. 北条湯原道路の状況

国道313号(倉吉道路)



3. 整備の目的①

地域間連携強化

○当該道路の整備により、岡山県真庭地方生活圏と鳥取県中部地方生活圏は、日常生活はもとより、刊行・産業等での交流強化が期待されている。



蒜山分署管内の救急搬送の1/3が倉吉市内へ!!
[H17~H21の5年間で1554件中570件]



事故多発区間の解消

○当該区間は、沿線に集落も多く、学校も立地していることから、歩行者の利用も多いが、人家や商店が連担しているため、歩道幅員も狭く、歩行者にとって、危険な状況となっている。

○現道区間では、域内交通と通過交通が混在することにより、交通事故が多発している。

○倉吉関金道路の整備により、交通流を分離させることにより、交通事故の減少が期待される。

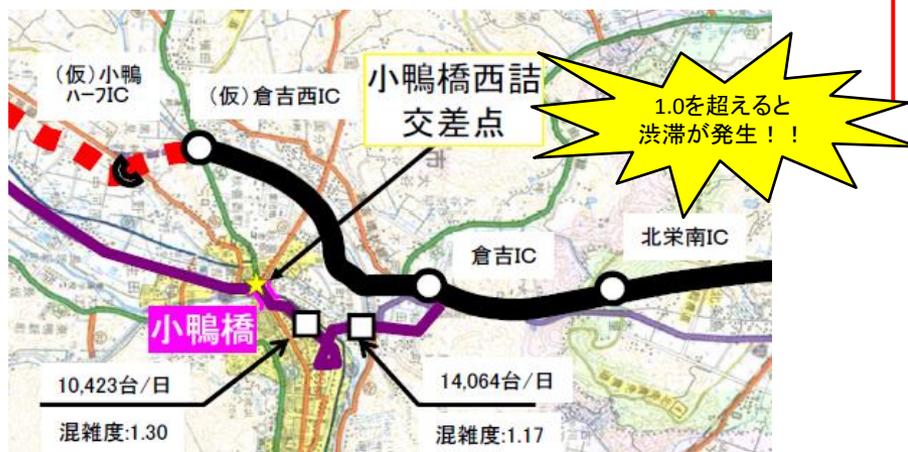
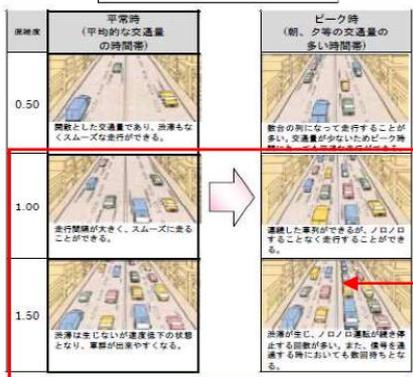


3. 整備の目的②

渋滞箇所の解消

- 小鴨橋西詰交差点は、倉吉市南部・西部と倉吉市市街地や国道9号を結ぶ位置にあり、朝夕を中心に慢性的に渋滞している。
- また、現道部も混雑度が1.0を超えているなど、渋滞が頻発している。
- 倉吉道路の整備により、交通流を分散化させることにより、渋滞の解消を図ることができる。

混雑率の概念図



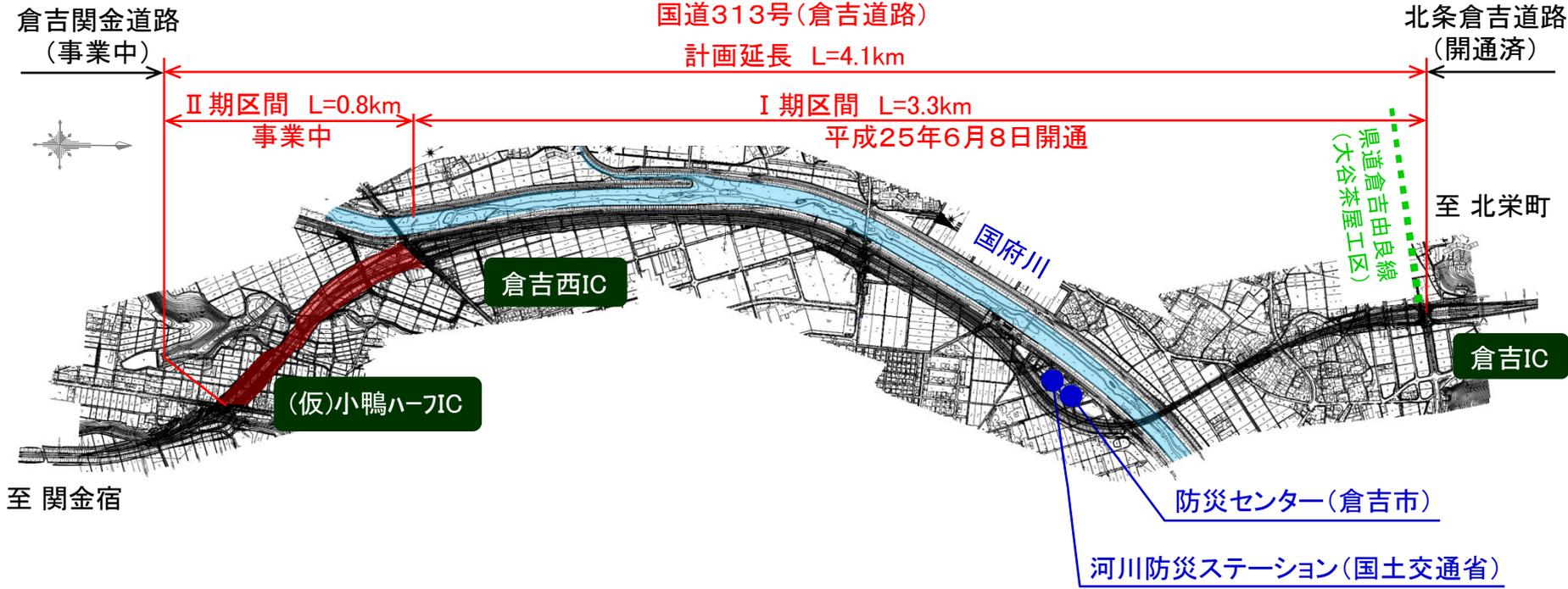
物流の効率化

- 路線周辺に立地する「西倉吉工業団地」や県中部特産の「大栄スイカ」、「二十世紀梨」の選果場と主要出荷先である京阪神地域を最短で結ぶことにより、物流の効率化を図ることができる。

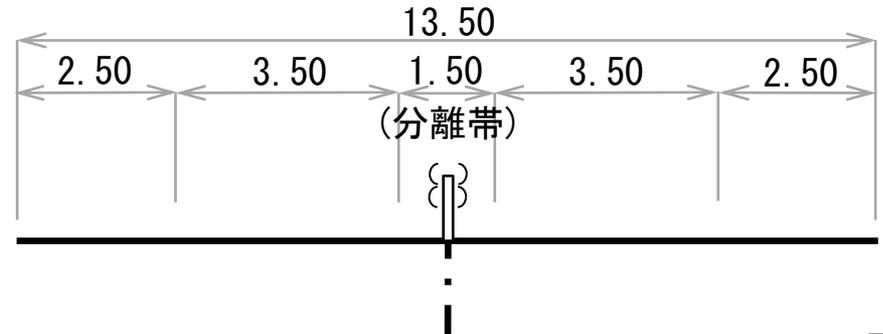


4. 平面図・断面図

国道313号(倉吉道路)



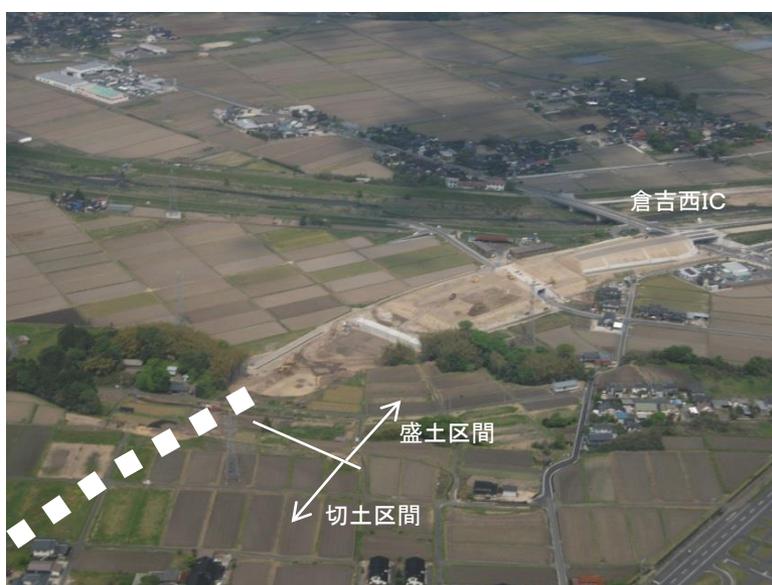
標準断面図



5. 現況写真①

国道313号(倉吉道路)

航空写真



5. 現況写真②

国道313号(倉吉道路)

工事状況写真



6. 事業の内容

国道313号(倉吉道路)

(事業の概要)

○計画延長 : L=4, 050m (バイパス)

○計画幅員 : W=7. 0(13. 5)m (完成2車線)

○道路規格 : 第1種第3級

○設計速度 : 80km/h

5, 800~11, 900台/日

○計画交通量(H42推計) :

倉吉IC~西倉吉IC ~~11, 400台/日~~ **11, 900台/日**

西倉吉IC~(仮)小鴨ハーフIC ~~7, 000台/日~~ **5, 800台/日**

○事業期間 : 平成17年度 ~ 平成27年度 **平成32年度**

○総事業費 : ~~11, 400百万円~~ **12, 500百万円**

(費用対効果分析の要因変化)

○費用(C) : ①農道橋の新規追加(110百万円の増)

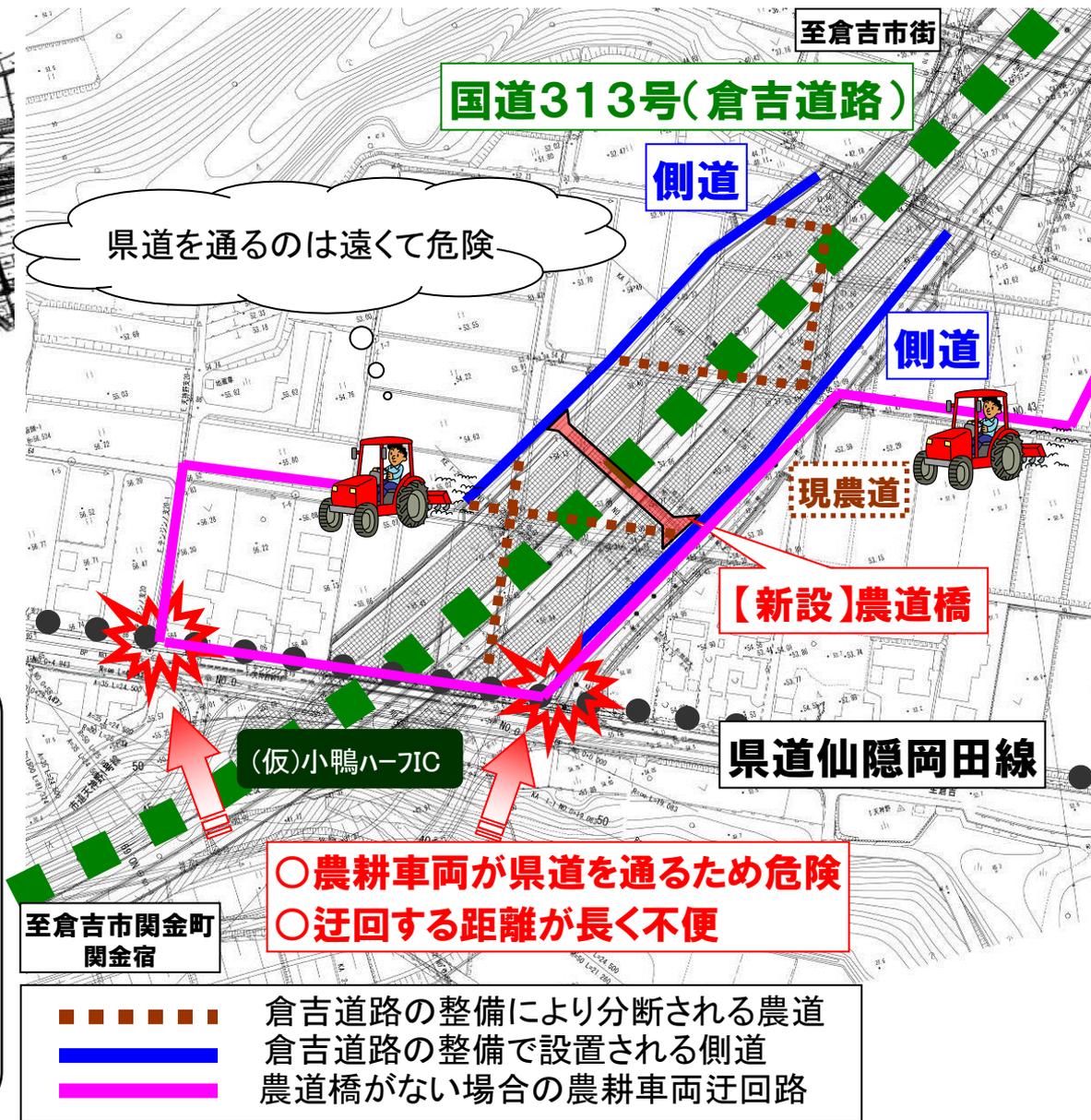
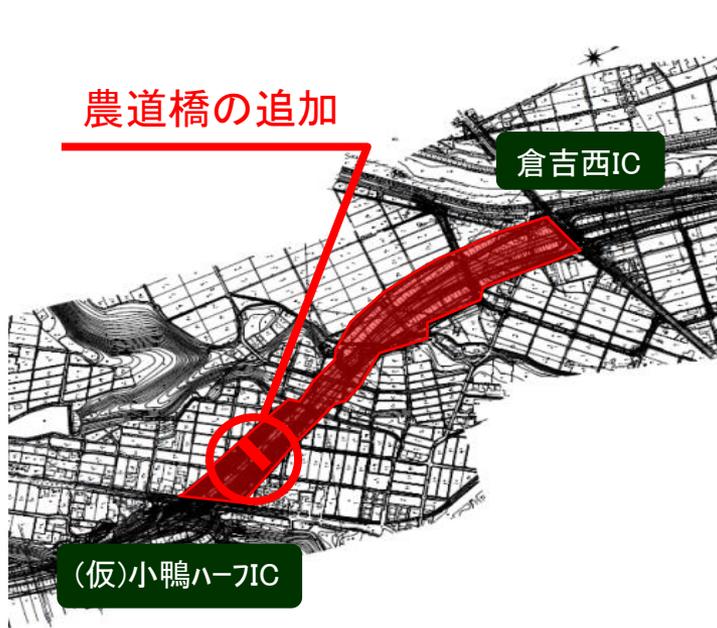
②軟弱土質対策の見直し(990百万円の増)

○効果(B) : 将来交通量の見直しに伴う直接便益の再算定
(走行経費節減、走行時間短縮、事故減少)

○費用対効果分析の結果 : **B/C=1. 48 1. 29**

7. 増額理由(農道橋の追加)

国道313号(倉吉道路)



○農道橋追加 110百万円の増

本事業によってほ場が分断され、農耕車両は県道に迂回することとしていたが、農耕車両が県道を通行することが危険でかつ、長距離の迂回となることから、農道橋を1橋追加

7. 増額理由(軟弱土質対策の見直し)

国道313号(倉吉道路)

軟弱土質対策の見直し

倉吉西IC

(仮)小鴨ハーフIC

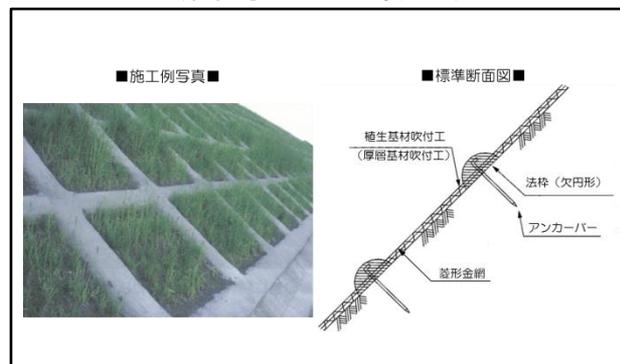
工法変更(客土吹付工⇒簡易吹付法砕工)

切土法面について、客土吹付工では軽石等の抜け落ちに対応できず安定しないため、簡易吹付法砕工に変更した

〔客土吹付工〕



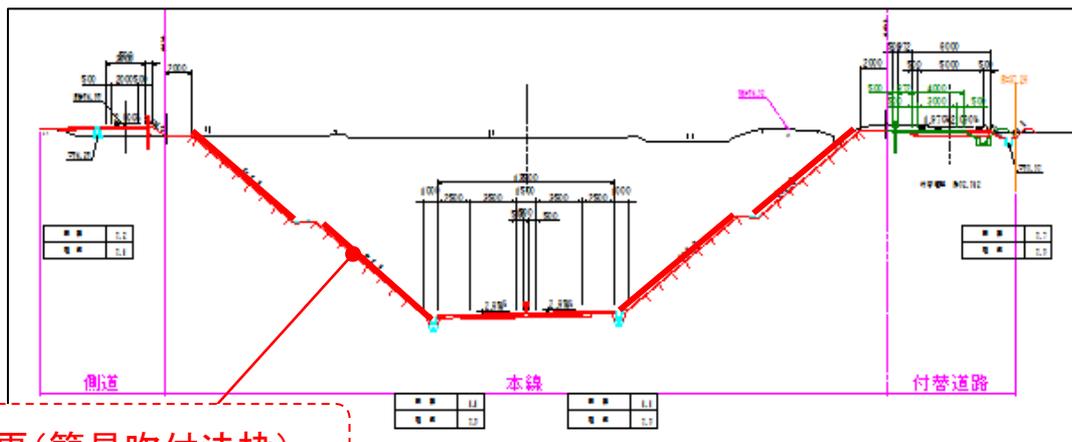
〔簡易吹付法砕工〕



○法面工法の変更

490百万円の増

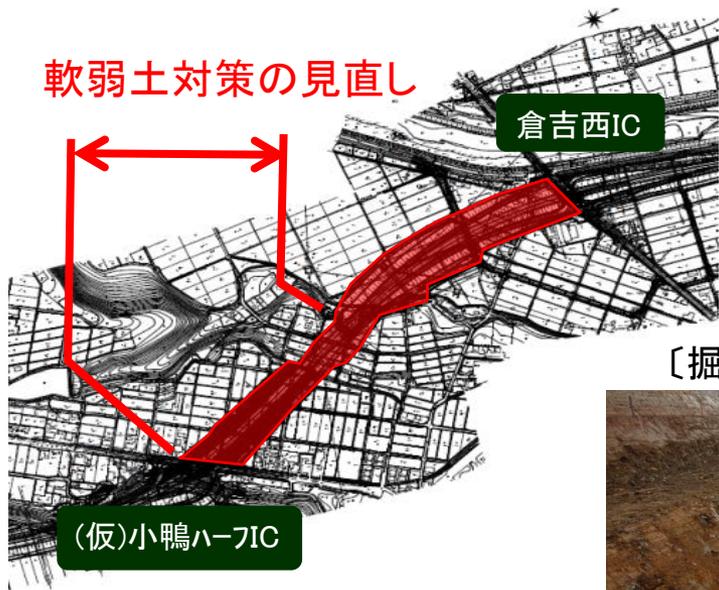
地質調査の結果、切土区間の土質が想定よりも軟弱な土質であったことから、法面保護の工法変更を行った



工法変更(簡易吹付法砕)

7. 増額理由(軟弱土質対策の見直し)

国道313号(倉吉道路)



土質改良材(生石灰)の添加量増

切土区間の発生土が水分を多く含む粘性土質であった。掘削土は本線路体盛土に流用することとしていたが、想定よりも軟弱であったため、路体盛土材として最低限必要な添加量の見直しが必要となった。

〔掘削状況写真〕

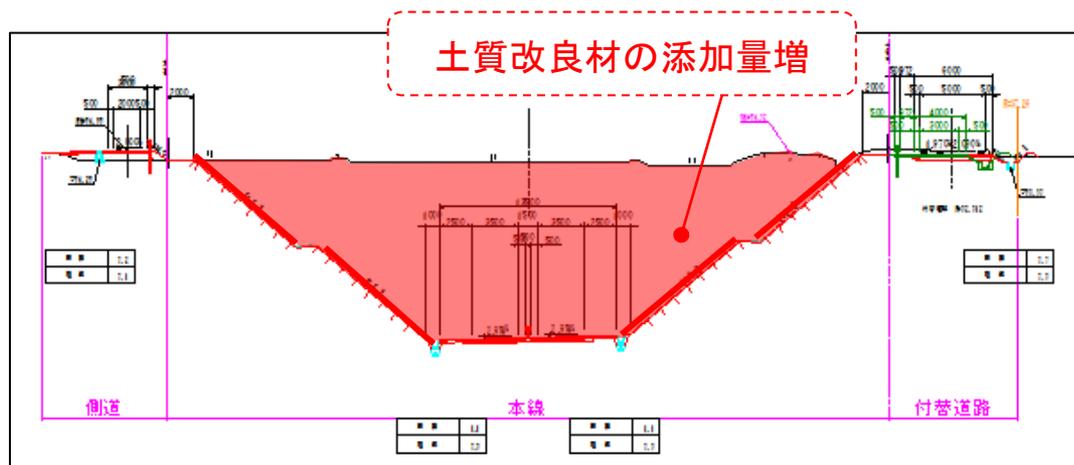


〔改良材混合状況写真〕



○土質改良材の添加量増
500百万円の増

掘削土の土質が想定よりも軟弱であったため、改良材配合試験を実施し、改良材の添加量を見直しが必要となった



8. 基本便益分析結果

国道313号(倉吉道路)

○費用便益分析結果

基準年			H22	H26
供用年			H28	H33
延長			4.05km	4.05km
設計速度			80km/h	80km/h
将来交通量 (H42)	整備あり	倉吉IC～倉吉西IC	114百台/日	119百台/日
		倉吉西IC～(仮)小鴨ハ-7IC	70百台/日	58百台/日
	(整備なし)		—	—
費用	事業費		110.48億円	134.91億円
	維持修繕費		3.20億円	3.08億円
	計(C)		113.68億円	137.99億円
便益	直接便益	走行時間短縮便益	134.46億円	133.81億円
		走行経費減少便益	14.01億円	21.35億円
		交通事故減少便益	18.22億円	23.31億円
	計(B)		167.69億円	178.47億円
費用便益比	(B/C)		1.48	1.29

※費用および便益の値は、基準年(H22、H26)における現在価値。